

科目名称：	子どもの音楽表現演習Ⅱ	
担当者名：	上野 高裕、水上 和子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
「子どもの音楽表現演習Ⅰ」で行った学習を継続し、練習を積み重ね音楽の基礎を理解し演奏、歌唱能力を伸ばす。また、保育者として基礎となる音楽の表現力の修得を目指す。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 楽典（音楽理論）をこれまで以上に理解して楽譜を読んだり楽曲を解釈して表現することが出来る。 2. ピアノの演奏技術を習得して、子どもの前で表情豊かに弾くことが出来る。 3. 子どもたちに保育の歌の弾き歌いを聴かせ、表現活動ができる。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		90	10		100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
ピアノ演奏技術	テンポ、リズムが正しくミス無く暗譜で弾くことが出来、子どもの発達に対応できる技能を持っている。	テンポ、リズムが正しくミスがあまり無く、ほぼ暗譜をして弾くことができる。	テンポ、リズムが少し乱れるが、大体弾くことができる。楽譜を見て弾くことができる	練習不足でミスが多いので、曲の途中で止まらない様に努力を要する。
弾き歌い技術	発声がしっかりしていて、音程が正しく十分な音量があり、伴奏の技能が高められている	音程がほぼ正しく十分な音量がある。伴奏が工夫されている。	音程がほぼ正しいが音量が少ない。伴奏がやや工夫されている。	音程が取れて、声が出るように努力を要する。
受講態度	授業に向けて良く練習しており、とても積極的に取り組んでいる。	授業に向けてほぼ練習しており、積極的に取り組んでいる。	授業に向けてほぼ練習している。	授業に向けて練習し、態度やことば遣いが出来る様に努力を要する。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 夏休み課題の確認	夏休み課題の練習と後期前半課題の予習	120分
第2回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導①	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第3回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導②	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第4回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導③	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第5回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導④	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第6回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導⑤	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第7回 前半習熟度確認に向けてのリハーサル	後期前半発表のための全曲練習	90分
第8回 ピアノ曲と弾き歌い曲の前半習熟度確認	演奏後の自分の技術をふり返り、反省点を今後の課題とすること	90分
第9回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導⑥	繰り返し練習を続け新たな技術を習得し、次学年につなげる	60分
第10回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導⑦	繰り返し練習を続け新たな技術を習得し、次学年につなげる	60分
第11回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導⑧	繰り返し練習を続け新たな技術を習得し、次学年につなげる	60分
第12回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導⑨	繰り返し練習を続け新たな技術を習得し、次学年につなげる	60分
第13回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導⑩	繰り返し練習を続け新たな技術を習得し、次学年につなげる	60分
第14回 後半習熟度確認に向けてのリハーサル	後期後半発表のための全曲練習	90分
第15回 ピアノ曲と弾き歌い曲の後半習熟度確認	演奏後の自分の技術をふり返り、反省点を次学年の課題とすること	90分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、ピアノ演奏技能の習熟には、限らない努力が必要である。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。

前半後半2回の発表で評価 前半習熟度50% 後半習熟度50%

#### 課題に対してのフィードバック

習熟度確認シートを使用し、学生の習得度をフィードバックしている。2回の発表形式型チェック後には、講評を行う。

#### 教科書・参考書

教科書：改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育（教育芸術社）  
参考楽譜：ピアノ課題、弾き歌い課題冊子